

目次

特別寄稿・出版界、書店業界は再生するか	1
理事会報告 海外ニュース	3
委員会報告	4
2001年 洋書輸入統計(前編)	5

特別寄稿

2001年新春を迎えて、業界へのメッセージ

出版界、書店業界は再生するか

中間情報を活用しよう

賀川 洋

今は出版不況です。しかし、私はこれから出版業界は大きく飛躍できると信じています。世の中の早い変化の中で、情報を文字に求める声は、増え続けると思うのです。

しかし、それには戦略が必要です。今回は、その戦略について考えてみます。

ここに田中さんというごく一般的な日本人を想像します。

田中さんは、朝ニュースをみます。

さて電車で通勤です。田中さんは雑誌の広告から、芸能界や政財界のゴシップ情報を入手します。会社でも、同僚や上司から情報を仕入れ、時には自分の業務にどう影響を与えるかを考えたりもします。

帰宅後、自宅で少しくつろぎます。朝、読み落とした新聞に目を通し、インターネットでメールをチェックしたり、テレビのスイッチをひねったり。そして、田中さんはベッドに読みかけの本を置いています。名前は聞いたことがあっても、読んだことのない作家の本を衝動買いしてあったのですが、書架からそれを出して読み始めたのです。

こうして、田中さんの平凡な一日は終了します。

ここで注目したいのは田中さんの情報収集のパターンです。よくみると、田中さんは、「短いセンテンスと映像」の情報を収集し、それを組み立てていることが分かります。

雑誌広告のコピー、同僚や上司からの言葉、インターネットでの情報。それらはどれも短いセンテンスからとられた情報なのです。

しかし、田中さんは一冊の本を最近買いました。作家の名前は短い情報によって収集しました。そして本屋さんで、ふとその作家のものを読んでみたくなったのです。

田中さんは、短い情報から深い情報へのドアを開けるために、書籍を読み始めたのです。

この短い情報から深い情報へと導くルートがしっかりしていれば、無数の田中さんが書店に足を運び、時にはネットを開いて書籍を購入します。

氾濫する短い情報の雨をくぐっている人を、それらの情報と関連した、より深い情報へと導ければ、人々は書籍を購入するのです。しかし、今は書店では、読者を書籍に導ける人材が枯渇しています。今では、読者の多くは、その役割を店員に求めてはいないでしょう。情報は情報によって販売されています。短い情報から深い情報への旅をするのは、その個人に他ならないのです。

ここで、中間情報という概念を紹介しましょう。中間情報は、情報の銀河を行き来する宇宙船です。この宇宙船は様々な出発点から書籍という終着点にしかお客を運びません。この宇宙船は短い情報から深い情報へと人を運ぶのです。

中間情報の宇宙船には、短い情報よりは少し深い情報が満載されています。短い情報を巷で入手した人々は、この宇宙船に搭乗し、より効率的な深い情報へと到達するのです。

書評欄、テレビなどでの特集番組、内容を深く掘り下げた高級カタログや、雑誌、ニュースレターなどが

中間報告にあたります。

美術館で特別展があったとします。

多くの人は、公告などの短い情報に導かれて美術館にやってきます。しかし、美術館はまだ宇宙船なのです。展示場は、参観者がその美術館の売り場に行き、カタログや関連した書籍の購入へと導く宇宙船なのです。

では、美術館の売り場はどうでしょうか。これは深い情報という最終目的地へ大型宇宙船から人を導く宇宙の「はしけ」にあたります。深い情報とは、書籍そのもので、その書籍が置かれる売り場や売り場へと導く書評やニュースレターといった中間情報が、宇宙船や「はしけ」なのです。

我々は、今、中間情報の役割をもう一度見直し、刷新させてゆく必要があります。

書店の売り場が、こうした宇宙船にとっての最終的な「はしけ」の役割を果たしているか考えましょう。そして、特別なフェア会場が、単に似通った書籍が置いている場所ではなく、ちょうど美術館の展示室のように、深い情報へしっかりとリンクした場所になっているか、検証してみたいものです。

そして第2は版元です。版元は、宇宙船をひきつける努力をしているのでしょうか。単に業界向けの書籍の一覧表ではなく、宇宙船足りえるニュースレターや、インターネットを通した情報提供を行っているでしょうか。

実は中間情報を満載した宇宙船は決して高価なものではありません。本のカバーやオビも、そうした読者を深い情報へと導く立派な宇宙船なのです。この中間情報を効率的に植え付けて、読者を書籍という深い情報に導く行為こそ、マーケティング活動に他ならないのです。宇宙船はニッチ（特別なニーズ）を求める旅人をニッチな深い情報源へと結びつけるものでなくてはなりません。

20世紀に、単にマスに向けて飛び立つ宇宙船はすでに開発されました。しかし、ニッチを求める人をニッチな深い情報へ導き、さらにその情報源を反転させてマスに届ける作業を一貫して行える宇宙船が不足していました。ニッチとニッチをリンクするものは、雑誌の記事やニュースレター、そしてウェブサイトです。その後ニッチを再びマスの前にあらわにしてゆくのが、書店など、小売店の売り場に他なりません。

これからは、できるだけこの2つの活動を融合させ

てゆく必要があります。

書店にコンピュータを置き、顧客が書籍を検索し、その書籍が置かれている場所を発見できるようにする作業も、2つの活動の融合作業に他なりません。版元と書店とが、お互いにネットでアクセスし、その端末を読者にも開放するといった作業も必要でしょう。

例の田中さんが、夜自宅のテレビである特集を視聴したとします。それは「ニューエコノミーの今後」というテーマでした。

田中さんはその後、コンピュータをオンしてある書店のウェブサイトアクセスし、そこのホームページで、レスター・サローの新刊書を発見したとします。この紹介記事からは、著者の考え方が、簡略に読みとれます。そして田中さんは類書のアイコンをクリックします。すると、同じようなテーマを論じている著者の作品が次々と紹介されます。

このウェブサイトという新しい中間情報を満載した宇宙船によって、田中さんはニューエコノミーという概念や、そのテーマの論点などを、短い時間で閲覧できたのです。これは従来のメディアではできなかったことです。より洗練された中間情報の宇宙船は、読者を短い情報からは見えてこない、その背景となる深い情報の泉へと、誘う強い牽引力を発揮しているはずなのです。

そうした様々な中間情報に支えられ、書店の売場が創造されていけば、読者へのマーケティング効果はてきめんです。当然特別の売り場は、ポップや無料のチラシなどに彩られています。さらに洗練された書籍のカバーやオビも読者の目をひきます。

ちょうど美術館のように、その売り場が中間情報の宝庫であってほしいものです。

すなわち、この売り場に来れば、より多くの中間情報を入手でき、そこで書籍を購入してページをめくれば、的確に深い情報に接することができるという風に、あの田中さんをはじめとした一般の読者を得心させるよう、努力したいものです。

この一点を考えれば、書籍業界はより明るい、そして21世紀を牽引できるいきいきとした業界へと変身できると思うのです。

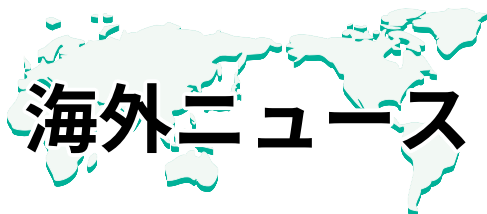
（株）タトル商会 代表取締役社長）

理事会報告

2月21日(水)

1. 以下の委員会報告を了承した。

- ・デザイン、レイアウト等を一新して1月号を発行した。これを機に内容の一層の充実に努める。
(会報委員会)
- ・本年も東京国際ブックフェアにて洋書バーゲンコーナーを設けるので、参加社を募集中である。
3月6日に説明会を開く。(昨年11社参加)
(事業委員会)
- ・ホームページ「ニュース欄」の充実を図っている。社員の方々に広くアクセスを勧めて欲しい。
また、Books in Printの無料利用を交渉する(但し期間限定)。(ダイレクトリー委員会)
- ・2月16日に委員会を招集し、2000年度活動の総括と2001年度活動計画案の討議を行った。
(広報・渉外委員会)



ランダムハウス社 電子本の版權を主張

ニューヨーク・タイムスは、「電子ブック出版ビジネスで新たな闘いがはじまった」というリポートを掲載した。それによると、Random Houseは、新規参入したRosetta Booksを相手に、既刊出版物の電子バージョンの版權所有に関する訴訟をおこすとのこと。Rosettaは、ウィリアム・スタイロンやカート・ヴォネガットなどの著者と直接交渉して、彼らの著作を電子ブックとして出版する権利を得ている。しかし、Random Houseは、著者ではなく印刷された本の出版元が、その本の電子版の版權も自動的に所有すると主張している。他の出版社もこのスタンスに同調しているが、著者側のスポークスマンはこれを「厚かましく、根拠もなく、遡求的に解釈したうえでの版權占有だ」としている。

2. (株)オライリー・ジャパンの入会(正会員)を承認し、日本書籍貿易(株)(1964年入会)の退会届を受理した。
3. 2001年度定時総会の会場、議事スケジュールの概略、及び役員選出規定を確認した。
4. 委員会編成・理事会案を決定した。
5. 東京国際ブックフェア・イタリア年行事の準備経過に関する理事長及び事務局長の報告を了承した。
6. 流通科学大学(神戸市)及び内閣府国民生活局のアンケート回答を事務局長に一任した。

新会員を紹介します

会社社名：株式会社 オライリー・ジャパン
東京都新宿区本塩町7-6
四谷ワイズビル
Tel：03-3356-5227
Fax：03-3356-5261
代表者：代表取締役社長 岩田有弘氏
主要事業：コンピュータ技術書輸入販売、翻訳・企画出版
入会日：2001年3月1日
会員資格：正会員

よろしくお願いします。

今年度中、残念ながら以下の会員の方々が退会されました。

(有)オビワン・ケヌービー(6月)
(株)旭屋書店(7月)
(株)北沢書店(9月)
(株)フランス図書(9月)
日本書籍貿易(株)(2001年2月)

再び加盟されることを期待します。

第38回麻雀大会 — 2001年2月16日(金)

中

「新世紀最初の大会」とは少々大袈裟(?)かもしれませんが、38回大会がクラブ東久(東京駅八重洲北口前)で開かれました。

オンライン書店の攻勢や大学の予算の伸び悩みなどに頭の痛い営業マン達も、この日の顔はまた別です。久しぶりに仲間に出会って、和やかな雰囲気の中で三回戦は始まりました。今大会はいつものベテランに混じって広瀬さん(丸善)、西山(幸)さん(西山洋書)や池上さん(東亜ブック)など若手も参加。24名、6卓と参加者も多く、この大会の今後が心強く感じられました。2回、3回戦は成績上位からの組み合わせとなり、最終戦では金木さん(原書店)、石渡さん(阪神A.C.)、広瀬さんと鶴(竜)さん(東亜ブック)の持ち点上位のデッドヒートになり、広瀬さんが見事トップで初優勝を飾りました。

優勝者慣例のスピーチでは「今日初めて参加させていただきましたが、優勝出来るほどの実力はござい

せん。皆さんに協力していただき、つきもあって運良く優勝出来ました。本当に有り難うございました。」と謙遜しつつ、少々照れくさそうに話す姿に惜しみない拍手が送られお開きになりました。

いつもながら幹事役の村山さん(ゲーテ書房)、尾崎さん(エイビス)有り難うございました。

成績は以下のとおり：

優 勝	広 瀬 (丸善)	67 点
準優勝	雨 宮 (タトル)	61 点
第三位	石 渡 (阪神A.C.)	47 点
ブービー賞	和 田 (丸善)	— 54 点
大波賞	鶴(竜) (東亜ブック)	
小波賞	永 棟 (丸善)	
	西 野 (三友社)	

(友隣社 上原鉄男記)

東京国際ブックフェア2001 イタリア パビリオン



2001年4月19日(木)～22日(日) 東京ビッグサイト東4ホール

19, 20日 10:00～19:00 21, 22日 10:00～18:00 (一般公開)



2001年は「日本におけるイタリア年」

東京国際ブックフェア2001に、大規模な「イタリアパビリオン」を設置します。

ふだん接することの少ないイタリアンブックの魅力と、香り高いイタリア文化のすべてを一挙公開！

イタリア文化会館主催イベント

- 4月20日(金) 10:00～13:00 トークセッション：1時間に二人ずつ、計3組イタリア人作家と聴講者の懇談
 - 4月21日(土) 10:00～13:00 トークセッション
14:00～ マルコ・ポーロ賞、ビーコ・デッラ・ミランドラ賞授賞式
12人のイタリア人作家を迎えて・交歓会 (東京ビッグサイト、レセプションホール)
- <入場無料・要予約 e-mail: eventi@italcult.or.jp>

2000年(平成12年)1月～12月の洋書輸入統計

(前編)

荒 木 亮 一

大蔵省関税局から発表された「日本貿易統計：2000年（平成12年）1月～12月」より書籍、新聞・雑誌およびその他の印刷物（第49類に含まれる品目、注1参照）の輸入額、輸出額をまとめ、若干の分析を試みたのでご報告したい。これらの資料が、多少でも今後の事業計画のお役に立てば大変幸いである。

また、昨年のレポートと同型式を採ったが、読みやすく、データを把握、理解して役に立てていただくために、更に精進したいと思う。ぜひ、ご意見、ご提案、また、疑問点などを事務局にお寄せいただきたい。

1. 2000年1月～12月の輸入通関統計表

表1 2000年品目別輸入通関額対照表（単位 百万円）

分類	品目	99年1月～12月 輸入価格	00年1月～12月 輸入価格	前年比	構成比
書籍 および それに 類する もの	単一シートのもの	121	116	95.87%	0.23%
	辞典および事典	341	225	69.98%	0.44%
	その他のもの(書籍)	28,302	30,282	107.00%	59.51%
	幼児用絵本	2,387	2,567	107.54%	5.04%
	小計 (1)	31,151	33,190	106.55%	65.23%
	楽譜	734	635	86.51%	1.25%
	地図／海図	548	518	95.40%	1.02%
	小計 (2)	1,277	1,153	90.29%	2.27%
新聞・ 雑誌そ の他の 定期刊 行物	一週に4回以上 発行するもの	87	82	94.25%	0.16%
	雑誌その他の定期刊行物	17,942	16,460	91.74%	32.35%
	小計 (3)	18,029	16,542	91.75%	32.51%
合計 (1)+(3)		49,180	49,732	101.12%	97.73%
合計 (1)+(2)+(3)		50,457	50,885	100.85%	100.00%

注1：第49類には「印刷した書籍、新聞、雑誌、絵画、その他の印刷物並びに手書き文書、タイプ文書、設計図及び図案」が含まれる。絵画以下の品目についての統計は別表(表9-1)にまとめた。

注2：楽譜／地図・海図は、1998年以降の報告に含めたので、この対照表では、参考までに、それを含まない額と含む額を併せて示した。

I. 書籍類について(以下、書籍という)：

印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他のこれらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない。）は、関税局の統計では次の通り分類されている。

(1)「単一シートのもの」は、“単一シートのもの（折り畳んであるかないかを問わない）及びその他のもの。”と説明されている。但し、絵又は挿絵を印刷したもの（折り丁又は単独のシートのものに限る。）で文章を伴わないものは、〔その他の印刷物〕に属する、と定義されている。『参考：一つの品目に属する“その他のもの”と、〔その他の印刷物〕は別項目であることを注意されたい。(表9-1)参照。』

(2)「辞典及び事典」には、(シリーズの形式で発行するものを含む。)

(3)「その他のもの」とは(1)、(2)を除く印刷物を指す。学術書、教科書、文学書の他に、美術品や図案等を複製した印刷物を集めたもの、書籍に補足として付属する絵画(書籍とともに提示するものに限る。)などを含む。

(4)「幼児用絵本」とは、絵が主体で、文章が副次的な幼児用の本をいう。

(5)「楽譜」などについては、別表参照。

II. 新聞・雑誌について(以下、雑誌という)：

新聞、雑誌その他の定期刊行物(挿絵を有するか有しないか又は広告を含んでいるかないかを問わない。)がこの範疇に入る。

(1) 1週に4回以上発行するもの(日刊紙など。)

(2) その他のもの(週刊、月刊のジャーナルなど。)

注3：書籍、雑誌の通関時期、関税の基準は例年の通りである。即ち、AIRMAIL/SURFACE MAILで輸入される書籍は、原則として、入荷月の翌月15日までに通関の届出が行われるので、統計上は1ヶ月遅れ。AIRCARGO/SALやDHLのような業者経由の輸入は、到着の都度通関の手続きを経るので、統計上にほとんど遅れはない、と思われる。

年間購読の雑誌は、AIRMAIL/SURFACE MAIL

で購読者に直送されるものについては、最終号が購読者に到着したと認められる時点において通関の届出がされるので、統計上、初号入荷時より約1年遅れが大勢を占めていると思われる。AIRCARGO/SAL扱いのものは書籍と同様に遅れはない。

関税の基準は"CIF"または"C&F"である。また、輸入原価が20万円以下(1社/月)の小額貨物については、通関手続きが免除されているので、統計には含まれていない。

<分析> 2000年は、為替レートが前年度1999年との比較で大幅円高に推移した。輸入量が75%を占める主要5カ国の年間平均値でみると、対米ドルは前年比で約5.4%であるが、Stg.£が10.4%、オランダGld.が18.0%、独マルク/仏フランが18.1%とそれぞれが円高となった。対米ドルの推移を例にとると、1999年半ばに¥120.00を越えたレートが、年末に向かい12月には¥102.77と円高が進み、2000年に入ってから概ね円高傾向が続いて年間の加重平均値が¥107.83となり、前年比で5.4%の円高で終わった。参考までに、31カ国(ユーロを加えた)の加重平均値が前年比で13.5%の円高に対して、輸入通関額は書籍6.6%の増加、一方雑誌は8.3%の減少で、全体の合計では1.1%の増加となっている。

因に輸入数量でみると、「書籍」は前年比で約22.6%増、「雑誌」は1.2%の減少であった。JAIPメンバーから、「昨年(2000年)は、辞書やセット物のような高額商品が低調で、単行本(社会、人文関係)が比較的良好に動いた」という話がきかれたので、輸入数量を品目別に見た。「単一シート」と「辞典及び事典」はそれぞれ24.8%、21.1%の減少、「その他のもの：書籍」は25.5%の増加、「幼児用絵本」は17.7%の増加であった。輸入額で全体の64.5%を占める書籍と幼児用絵本が久しぶりに好調であったことは明らかである。

為替レートの変動が著しい昨今なので、円高/円安のウェイトによる増減を把握しておく必要があるようである。1999年度輸入合計額が前年比で9.0%(書籍12.0%、雑誌5.0%)落ち込んだが、為替レートは13.0%の円高であったので、昨年の報告では実質増加、とした。2000年も、円高傾向にも拘わらず、書籍は好調、雑誌は為替の変動に敏感なため減少したが、社会が「景気低迷期には洋書が売れる」という健全さを取り戻しつつあるように望みたい。因に、マーケットの

需要は、低調安定型とでもいえるように思われた。

2. 最近10年間の推移

表2 10年間の輸入通関額対照表(単位百万円)

暦年	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
1991	27,124	82%	100	14,399	85%	100	41,523	83%	100
1992	26,597	98%	98	19,360	134%	134	45,957	111%	111
1993	24,109	91%	89	15,928	82%	111	40,037	87%	96
1994	23,924	99%	88	16,023	101%	111	39,947	100%	96
1995	24,520	102%	90	17,418	109%	121	41,938	105%	101
1996	29,399	120%	108	19,844	114%	138	49,243	117%	119
1997	35,453	121%	131	18,220	92%	127	53,673	109%	129
1998	35,253	99%	130	19,056	105%	132	54,309	101%	131
1999	31,151	88%	115	18,029	95%	125	49,180	91%	118
2000	33,190	107%	122	16,542	92%	115	49,732	101%	120

注1：今回は、上記(表2)のとおり、「指数」をレポートする最初の年度を“100”として、輸入額の推移を描いた。

注2：従来通り、2000年を含め、地図・海図を含まない数値である。

表2の別表 品目別輸入「数量」対照表

品目	輸入された「数量」				
(書籍)	1998	1999	前年比	2000	前年比
単一シートのもの	139,660	212,252	152%	159,656	75%
辞典および事典	271,571	212,398	78%	167,572	79%
書籍など	9,503,408	9,242,745	97%	11,604,424	126%
幼児用絵本	1,628,714	1,642,210	101%	1,932,659	118%
合計	11,543,353	11,309,605	98%	13,864,311	123%
(新聞・雑誌)					
一週に4回以上発行するもの	85,200	71,095	83%	61,153	86%
新聞・雑誌その他の定期刊行物	4,970,142	4,836,116	97%	4,788,746	99%
合計	5,055,342	4,907,211	97%	4,849,899	99%

<分析> 1998年から1999年、そして2000年と為替レートが加重平均で円高を示したが、1999年vs.2000年の輸入額では、書籍が7%の伸びを、一方雑誌は8%の減少であった。これを数量(部数)で比較してみたのが(表2の別表)である。即ち、書籍は23%増え、雑誌は1%の減少となっている。これらは何を

語っているのだろうか；書籍については、辞典やセット物のような高額商品が低調で、単行本が大幅に増えたことと、幼児用絵本が最近の「幼稚園前の幼児時代から英語に親しませる風潮」に乗って増加した、ということが考えられる。雑誌は1998年から数量でも下降しているが、やはり円高が追い付かない。版元の値上げ（紙の値上がりなどによる）や、大手の顧客筋における図書予算の削減を誘因とする、より厳しいジャーナル選定、また、版元のジャーナル電子化や図書館による情報の共同利用などが理由ではないだろうか。更に、後編で検証をつづけたい。

3. 主要国別(11ヶ国)輸入通関統計

表3 主要国別輸入通関額対照表（単位 百万円）

国名	書籍・辞書・絵本			雑誌・新聞			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
米	12,317	108%	37%	6,313	96%	38%	18,630	104%	37%
英	7,010	100%	21%	4,606	93%	28%	11,616	97%	23%
オランダ	985	82%	3%	2,267	86%	14%	3,252	85%	7%
独	1,762	85%	5%	1,085	82%	7%	2,847	84%	6%
仏	627	85%	2%	415	88%	3%	1,042	86%	2%
スイス	322	79%	1%	156	70%	1%	478	76%	1%
シンガポール	4,081	127%	12%	121	127%	1%	4,202	127%	8%
香港	1,954	126%	6%	337	107%	2%	2,291	123%	5%
中国	1,274	110%	4%	131	96%	1%	1,405	108%	3%
韓国	532	75%	2%	211	122%	1%	743	85%	1%
イタリー	516	155%	2%	262	70%	2%	778	110%	2%
小計	31,380	105%	95%	15,904	92%	96%	47,284	100%	95%
その他の国	1,810	137%	5%	638	82%	4%	2,448	117%	5%
計	33,190	6%	100%	16,542	92%	100%	49,732	101%	100%

注：今回より、ここ数年に亘って往年の6位、スイス、を凌いできた5カ国を加えた。

＜分析＞ 貿易統計を遡ってみるに、1991年には香港が5位のフランスに91.6%まで迫っており、1992年には100.6%と上回った。1994年にはシンガポールが香港を抜き去り、両国がそれぞれ5位、6位と輸入額では主要国入りを果たしていたといえる。11カ国のシェア（構成比）は昨年と同様95%（昨年のレポートでは10カ国のシェアが94.4%）であった。ただ、アメリカが維持した37%を除けば、英国とオランダ、更にドイツがそれぞれ1%の減少であった。後発のシンガ

ポールと香港が大幅な伸びを記録し、それぞれ127%、123%を示した。ヨーロッパの出版社がこれら2カ国における安い労働力と優秀な印刷技術をますます採用するようになったためではないだろうか。

4. マイクロフィルムの輸入通関統計

表4 2000年までの輸入通関額の推移（単位百万円）

品名	1990	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	前年比	90:00
マイクロフィルム	780	524	527	614	551	528	421	431	102.38%	55.26%

注：写真用のプレート及びフィルム（露光し、かつ、現像したものに限るものとし、映画用フィルムを除く。）で「オフセット用のもの」、「マイクロフィルム」と「その他のもの」に分類される。

＜分析＞ 1999年は前年比で約20%の減少であったが、2000年は円高にも拘わらずvs.1999年で2%という微増。文献やデータの整理に活躍したマイクロフィルムも、今はCD-ROMにならない部分においてのみ活用されているようである。図書館や研究所の利用価値を次回までに検索してみたい。

5. “CD-ROM”の輸入通関統計

表5 2000年までの輸入通関額の推移（単位百万円）

品名	1996	1997	1998	1999	2000	前年比	96:00
(CD-ROM1)	20,355	31,700	27,565	38,283	47,584	124%	234%
(CD-ROM2)	～	～	～	5,552	9,948	179%	～
計	20,355	31,700	27,565	43,835	57,532	131%	～

注：このデータは「レーザー読み出しシステム用のディスク」のもので、「音声のみの再生用のもの」を除いてある。

- (1) は、音声及び画像以外の記録の再生用のもの。
- (2) は、その他のもの（音声のみの再生用のもの、を除く）

＜分析＞ 昨年、{書籍+雑誌}の輸入合計額と比較しても、その89.1%までの伸びをみせたCD-ROM商品の輸入が、2000年は同様の対比で95.7%となった。対書籍の輸入額のみでは143%である。教育用、英語などの学習用、辞書・辞典を記録したもの、ジャーナルのCD化など、その利用価値と比例してユーザーの幅もますます伸びているようにみえる。図書館や研究所の利用度を次回までに検索してみたい。（つづく）

ピアソン・エデュケーション スチューデント版ソフトウェア



LabVIEW-6i Student Edition, 1/e

by Robert H. Bishop

2001, 0-13-13032550-3, Prentice Hall USA

¥9,900 (本体価格)

計測、計測機器、流体力学、熱・物質伝導、自動制御など、あらゆる機械工学分野で活用され、試験、計測、自動化ソフトの国際的標準として知られるLabViewのスチューデント版。プログラムを書くことなく、Vis (Virtual Instruments) を容易に作成でき、ソフトウェアを双方向にコントロールできるフロントパネル・インターフェースを構築することができる。学生、教職者を対象に編集。

SPSS 10.0 for Windows Student Version, 1/e(CD-ROM)

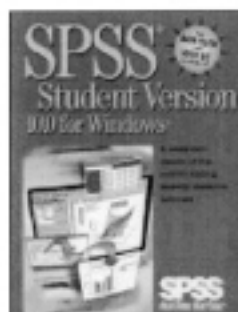
by SPSS,

2000, 0-13-028040-2, Prentice Hall USA

¥9,400 (本体価格)

数学はもとより、社会学、心理学、医学、経済学などあらゆる分野で活用される数値統計ソフト。教職者・学生を対象に編集。

System Requirements: Microsoft Windows 95/98 or NT 4.0 / 586 or better IBM-compatible PC / 68 MB hard disk space / 32MB RAM minimum / 32 MB virtual memory / SVGA monitor / Windows-compatible mouse



Xilinx Student Edition 2.1i, 1/e

by Xilinx, Inc.

2001, 0-13-028907-8, Prentice Hall USA

¥6,380 (本体価格)

コンピュータおよび周辺機器、通信、ネットワーク、工業用制御機器、計測機器などの製品の開発期間が大幅に短縮可能となる、最先端のプログラマブルロジックソリューションを提供しているザイリンクス社のデジタルロジック学習環境を提供するソフトウェア。ロジックデザインに必要な、FPGAs (Fields Programmable Gate Arrays) やCPLDs (Complex Prog. Logic Devices) を使用したラボセッションを提供。

詳しい情報に関しては下記のホームページをご覧ください。



株式会社 ピアソン・エデュケーション

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-14-24 西新宿KFビル101

TEL:03-3365-9003 FAX:03-3365-9009

e-mail:academic@pearsoned.co.jp <http://www.mmjp.or.jp/pearsoned>

Homepage <http://www.prenhall.com>